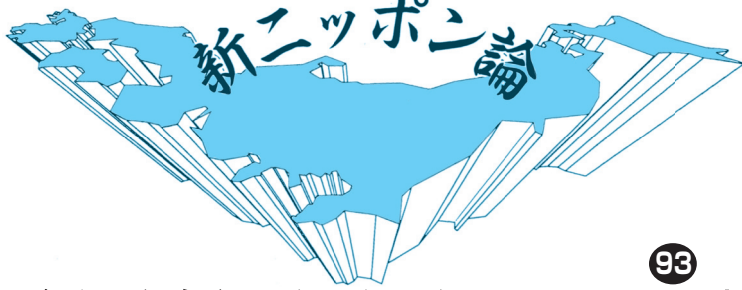


田中康夫の



# 「誤送船団・記者クラブ」

93

「愚かな一地方政治家の発作的行動」。2001年10月16日、第54回新聞大会の冒頭で渡邊恒雄(わたなべつねお)日本新聞協会会長は宣いました。

電子媒体が未整備だった20年前、

敏・過剰に反応頂けるとは身に余る光栄」と。

「如何なる根拠に基づいてか、記者クラブ主催だった長野県知事の記者会見は今後、県主催とする」「脱・記者クラブ」宣言」を、2001年5月15日に発したのは極めて素朴な理由です。

「思想・信条の自由」を憲法に掲げる極東の島国で、国政政党と宗教団体の日刊機関紙として、共に国内最大発行部数を有するにも拘らず、「しんぶん赤旗」と「聖教新聞」は長野県知事会見への出席が叶わなかったのです。

価値紊乱な「ガラス張り」を掲げて山国・信州の知事に就任した僕は、更に訝ります。在京・在阪・在名を始めとする県外のTV局、ラジオ局、スポーツ紙、地方紙は、事前に申請書を長野県政記者クラブに提出せねばならず、出版社系の雑誌媒体に至っては端から拒絶されていました。況んや、組織に属さぬフリーランサーの表現者に於いてをや。

「その数、日本列島に八百有余とも言われる『記者クラブ』は、和を以て尊しと成す金融機関すら『誤送船団方式』との決別を余儀なくされた21世紀に至るも、連続と幅を利かす。それは本来、新聞社と通信社、放送局を構成員とする任意の親睦組織の側面を保ちながら、時として排他的な権益集団と化す可能性を拭い切れぬ。現に、世の大方の記者会見は記者クラブが主催し、その場に加盟社以外の表現者が出席するのは難しい。「須く表現活動とは、一人ひとりの個人に立脚すべきなのだ。責任有る言論社会の、それは基本である」と宣言で記していた僕が、今後は県が主催し、寄稿・発表媒体名と自身の名前をフルネームで述べるルールに同意する全ての「表現者」を分け隔て無く迎え入れて質疑応答を行う旨、宣言発表当日の知事会見で伝えるや、往時45歳の僕よりも年若い記者は「有り得ない」と声を上げ、「現場主義」を返上して久しき上司に報告すべく廊下に駆け出しました。

加盟各社は挙って、翌日付の社会面で「託宣」を報じます。長野県政記者クラブ所属の面々から感想を求められ、答えました。「社会の木鐸たる先達に、斯くも過

なくされた21世紀に至るも、連続と幅を利かす。それは本来、新聞社と通信社、放送局を構成員とする任意の親睦組織の側面を保ちながら、時として排他的な権益集団と化す可能性を拭い切れぬ。現に、世の大方の記者会見は記者クラブが主催し、その場に加盟社以外の表現者が出席するのは難しい。

「須く表現活動とは、一人ひとりの個人に立脚すべきなのだ。責任有る言論社会の、それは基本である」と宣言で記していた僕が、今後は県が主催し、寄稿・発表媒体名と自身の名前をフルネームで述べるルールに同意する全ての「表現者」を分け隔て無く迎え入れて質疑応答を行う旨、宣言発表当日の知事会見で伝えるや、往時45歳の僕よりも年若い記者は「有り得ない」と声を上げ、「現場主義」を返上して久しき上司に報告すべく廊下に駆け出しました。

逆に僕は、「誤送船団・記者クラブ」の二枚舌振りを指摘しました。長野県警察本部長と長野地方検察庁検事正の会見は何故、主催権を先方に委ねているのですかと。仮に当該組織で不祥事が続発しようとも、月に一度の定例会見まで

「国際感覚」に驚嘆します。主催権ならぬ会見「進行権」すら奪還せず、「更問」導入だの「フリーランス」枠拡充だのと些末な、やつてる感を真顔で語る誤送船団・記者クラブ。読売・朝日・日経・毎日がパートナー、産経・北海道がサポーターで雁首揃える復興五輪の「つ」が抜けて不幸五輪と化しつつある「あたおかニッポン」に相応しき狂騒曲です。

「国際感覚」に驚嘆します。主催権ならぬ会見「進行権」すら奪還せず、「更問」導入だの「フリーランス」枠拡充だのと些末な、やつてる感を真顔で語る誤送船団・記者クラブ。読売・朝日・日経・毎日がパートナー、産経・北海道がサポーターで雁首揃える復興五輪の「つ」が抜けて不幸五輪と化しつつある「あたおかニッポン」に相応しき狂騒曲です。

内閣記者会見の進行は「慣例」で、内閣法に基づき内閣官房に置かれた内閣広報官が仕切り、「絶対に断らない女」として耳目を集めた山田真貴子氏に続いて、白羽の矢が立ったのは一橋大学社会学部卒業の小野日子氏。

外交官を目指す若者向けに外務省人事課作成のリーフレットで、「途上国勤務も自分を成長させる貴重な経験」と東南アジア諸国連合日本政府代表部次席大使のジャカルタ時代を語る香ばしい御仁。212ヶ国中、国内総生産が世界16位のインドネシアを「新興国」ならぬ「途上国」と認識の日本外交

「国際感覚」に驚嘆します。主催権ならぬ会見「進行権」すら奪還せず、「更問」導入だの「フリーランス」枠拡充だのと些末な、やつてる感を真顔で語る誤送船団・記者クラブ。読売・朝日・日経・毎日がパートナー、産経・北海道がサポーターで雁首揃える復興五輪の「つ」が抜けて不幸五輪と化しつつある「あたおかニッポン」に相応しき狂騒曲です。

「あたおかニッポン」に相応しき狂騒曲です。

★次号(10月号)の発行日は4月30日です。